

学びと誇りが実感できるまち

～読書好きな子供に！

本は世界に通じる窓です～

令和元年 5月号

庄原市教育委員会
教育長 牧原 明人



蛍火の今宵の闇の美しき (高浜虚子)

今夏は、全ての学校の普通教室に冷房設備が整います。これまで猛暑が続くと
き、子供たちは、うだるような暑さの中で懸命に授業に臨んでいましたが、これ
からは過ごしやすい環境の中で勉強をすることができます。

さて、今回は、読書推進についてです。本年度も「庄原の子供はいつも今読ん
でいる本が鞆に入っています」を合言葉に、読書好きになる取り組みに力を入れ
ていきます。本は世界に通じる窓です。本を読むと誰にでも会え、どこにでも行
けます。読んだ本の数だけ体験できる世界や想像力は広がっていきます。

次の表は、昨年度、読書活動状況を調査した結果の一部です。

1か月に何冊くらい本を読むか (%)

学 年		1か月に何冊くらい本を読むか (%)				
		読まない	3冊未満	3冊以上～ 6冊未満	6冊以上～ 11冊未満	11冊以上
小学校 第5学年	庄原市	2.5	15.5	19.0	25.4	37.6
	広島県	9.3	22.9	29.3	18.9	19.6
中学校 第2学年	庄原市	13.0	47.9	24.4	8.4	6.3
	広島県	15.4	50.0	21.8	7.3	5.5

(平成30年度 広島県「基礎・基本」定着状況調査結果から)

子供たちが本に親しみ、読書意欲が高まってきています。学校司書や読書ボラ
ンティアの皆さんの読み聞かせ、推薦本の紹介、読書環境の整備などにより、読
書量も増えてきました。なかには目的に応じて読んだり、本から学び自らの考え
を深めたりしている子供もいます。一方で、本を読む機会の提供を行っているも
ののまだまだ読書の習慣化が図られていないという課題もあります。

本をよく読んでいる子供たちは、「時間を決めて読む」「興味・関心を持った
ことや課題を見つけたときなどは、本で調べる」「家族で本を読み、本の世界を
話題にしている」「友達と本に関する情報共有をしている」などの傾向がありま
す。また、子供の周りにはいる私たち大人の読書姿勢も影響があるようです。

引き続き、学校だけではなく、家庭や地域も連携した図書館活用も行い、読書
の楽しさや魅力がしっかり味わえる取り組みを推進していきます。